

「ASTONE通信」



第152号
2020年11月21日発行

担当：大伴 明子

～2021年(令和3年)の干支～

丑年(うしとし)ってどんな年？



一般的に「2021年の干支は？」と聞かれた場合、十二支を指すことが多いのですが、正しく干支を指す場合は、2021年の干支は「**辛丑(かのと・うし)**」となります。干支というのは、「**十干(じっかん)**」と「**十二支(じゅうにし)**」を組み合わせたものが「**十干十二支**」、これが**干支**と呼ばれるものになります。

☆ 十干(じっかん)という数え方 ☆

甲(コウ・きのえ)、乙(オツ・きのと)、
丙(ヘイ・ひのえ)、丁(テイ・ひのと)、
戊(ボ・つちのえ)、己(キ・つちのと)、
庚(コウ・かのえ)、辛(シン・かのと)、
壬(ジン・みずのえ)、癸(キ・みずのと)

☆ 十二支(じゅうにし)という数え方 ☆

子(ね・ねずみ)、丑(うし)、寅(とら)、
卯(う・うさぎ)、辰(たつ・りゅう)、
巳(み・へび)、午(うま)、未(ひつじ)、
申(さる)、酉(とり)、戌(いぬ)、
亥(い・いのしし)



本来の干支とは、十二支に陰陽五行の流れをくむ十干を合わせたものです。全部で60種類、60年をかけて一巡りします。

身近なところにも十干十二支に由来する語が残っています。

60歳の還暦のお祝い!!

日本では60歳を迎えると長寿として還暦のお祝いをするという風習があります。

60ある干支が一回りして「暦」の上で元に「還」るためこのように呼ばれているのです。



～丑年の意味や特徴～



「丑」は「チュウ」「つかねる」「むすぶ」とも読み、紐(ひも)という漢字に由来するものです。細い糸をいくつも束ねて強い紐にして結び直す事から、物をまとめるという意味があります。

もともと十二支は植物が循環する様子を表しています。丑は十二支の2番目で、**子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期**とされています。

丑年には、先を急がず目の前のことを着実に進めることが将来の成功につながっていくと言われています。

～丑年生まれの人は～



丑年生まれの人は**努力家**で、**自分で決めた事は最後まで諦めずにやり通す強い意志**があります。その一方で、物事に取り組むまでの時間がかかる**スロースターター**で、決まった行動パターンを崩さない一面も持っていることから**マイペース型**ともいわれています。また、普段は温厚な性格ですが、一度怒らせてしまうと誰にも止められません。怒り狂った闘牛のように手がつけられない状態になってしまうことも・・・(笑)

～丑年生まれと相性のいい干支って?～



～もめることなくお互いが助け合えるような関係を築き易いです～



2020年は新型コロナウイルス・パンデミックによって世界中が多くの困難に見舞われました。

令和になって初めての丑年、2021年希望に満ちた年になると良いですね。



* 「今月の名言」・・・自ら実行して得た体験は永遠の宝である。

朝倉商事株式会社